

落した受験票で拾った地域のぬくもり

下記の内容は、令和6年4月8日の新潟日報読者投稿欄「窓」に投稿された当校学区の地域の方の投稿です。

受験票拾い母校に届ける

毎朝、ごみ拾いをしながらウォーキングに励んでいる。主にプラスチックごみを集め、運転免許証やスマートフォンを見つけるとすぐに交番に届ける。

三月にあった高校入試の翌日だ。歩道に落ちていた紙を拾い上げると、受験票だった。

デジタル社会における高校受験である。それほど重要ではないかもしれないと思った。

しかし、自身の苦い経験が脳裏をよぎった。合格発表時、私は受験票を忘れ、タクシーで家まで取りに戻り大変だった。

拾った受験票は乾かした後、封筒に入れて母校の中学校に届けた。

教頭先生に「受験が終わって必要ないかもしれませんが」と言うと、「今まさに、紛失した受験票についての対策を思案中だった」と感謝された。

封筒の裏には「目標に向かって努力してください」と、後輩に激励の言葉を記したためた。

妻に話したら、自分のことのように喜んでくれた。

受験生は、きっと志望校に合格しているだろう。高校生活を楽しんでほしい。

この投稿を読んで、この内容が当校のことだとすぐにわかりました。投稿してくれた方は、仕事をお辞めになって既に十年ほど経った無職の男性の方ですが、自身もそして既に成人した3人のお子さんも、当然皆さん新津二中の卒業生とのこと。

あらためてお宅を訪問してお礼に伺ったところ、「あの子は無事合格しましたか？」と真っ先に尋ねてくれました。受験票を届けてくれたこともさることながら、生徒のことを今尚心に留めておいてくれたその優しさに胸が打たれました。

いろいろお話する中で、何度も何度も、「自分は二中のことが大好きなんだ」「いつも二中のことを応援してるよ」と話をしてくれました。

地域の方々からは、中学生の交通マナーが悪い、あいさつが悪い、などとお小言を言われることも多く、地域でいろいろ迷惑をかけているケースある中で、本当に嬉しくてたまりませんでした。

この投稿の中にもあるように、既に受験を終えた後に受験票がなくとも、合否に何ら影響はありません。受験番号をあらためて確認して申し出て本人だと確認されれば、当然入学に必要な書類等はもらえることとなりますので、入学に向けた支障は特にはないのです。

でも、皆さんも経験があると思いますが、失くしたものが見つからないというのは、とてもモヤモヤして気になるものです。たとえ貴重なものでなくても、個人情報が含まれているものでなくてもです。ですから、失くしたものが見つかるということは、その物の価値に関わらず嬉しく感じます。確かに、受験を終えたあとの受験票も特に必要なものではないのかもしれませんが、受験票が合格の記念や人生の思い出にずっと取っておく人だっていることを考えれば、人によってはかけがえのないものかもしれません。

今回は、届けてくれた封筒の裏に「目標に向かって努力してください」との激励まで書いて届けていただきました。受験票以上に、その言葉のぬくもりに感謝するばかりです。本人はもちろんのこと、学校としても本当に本当にうれしい限りです。

当校は今年で、創立 77 周年を迎えます。昨年度 2 月の同窓会入会式で話をした内容を、本校長日より No. 53「窓から差し込む光明に未来が見える！」でもお伝えしましたが、これまでの新津第二中学校の卒業生は 12,023 人を数えます。

地域のすべての皆さんと手を携えながら「地域とともにある学校」づくりに邁進すべきは当然ですが、その中でも、特に、当校の卒業生である地域の皆さんは、最も親身に叱咤・激励してくれる人生の先輩として、学校の応援団の先頭に立って、温かい眼差しとともに、これからも行動連携の核であり続けていただきたいと切に願うばかりです。

さて、物を落してそのものが返ってくる場合もあれば、そうでない場合もあります。物を落して気づく場合もあるし、そうでない場合もあります。物を落して幸せをつかむ人もいれば、そうでない人もいます。悲喜こもごもです。

以前、拾った1億円が落とし主の申し出がなく自分のものになって、しばらくワイドショーを賑わせた人もいましたが、その後の人生は決して幸せとはいかなかったようです。

一方、私の初任校の時の先輩の先生が、奥さんとのなれそめについて語ってくれた次のような実話があります。

「ある日、車を運転していて、ちょっと横を見たら、歩道を歩いている女性がハンカチを落して気づかずに歩いていった。車を脇に留めて、ハンカチを拾って追いかけてその女性に渡した。その相手が今の嫁さん。」

教員になって最大のロマンティックなエピソード。私もそんなドラマのような教員人生を味わってみたいかった。一体、何を落したらいいのだろう？